

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月2日～

先週のドル／円はじわじわと円安方向へ動き、週末には146円台を回復して終わっています。

8月初めの悲壮感は落ち着き、マーケットは再びリスクオンの雰囲気になっています。

しかし、9月になると流れが変わる可能性もあるので、リスク管理はしっかりしておきたいです。

先週発表された米国の経済指標は比較的堅調なものが多く、9月の米国の利下げ幅は今のところ0.25%となるとの予想がほとんどです。

NYダウが史上最高値更新など米国株も利下げを好感して、上昇してきています。

日経平均は8月初めのレートあたりまで戻しているのですが、株価だけ見ると8月の急落は嘘のような動きとなっています。

ただし、為替相場ではファンダメンタル的には米国の利下げが開始されるとドル／円が下がっていくリスクが高まっていくので、年末にかけて円高が進行すると考えておいた方がよさそうです。

お盆あたりにドル／円は149円台まで上昇しましたが150円を超える動きにはならなかったのが、9月に入って、再び150円を超える動きになるかどうかです。

今週は米国で雇用統計があります。いつも以上に失業率が悪化しているかどうか注目が集まっています。

FRBは、インフレはそろそろ落ち着きつつあると見ているため、今後は雇用情勢への関心が高まりつつあります。

今までの利下げ局面と違う点があるとすれば、コロナ禍の前は利下げをする時は、景気悪化でインフレよりデフレを気にする状況だったということです。

デフレだと大胆に金融緩和がやりやすかったのですが、今回あまり金融緩和をやり過ぎるとインフレが再燃するというリスクがあります。

実際、失業率は昨年から上昇してきていますが株、不動産、家賃、食料品や日用品などはどれも最高値圏で推移している状態です。金融商品も高値圏にあるものが多く、エブリシング・バブル(全てがバブル)状態だという指摘もあります。

ということで、今回の利下げがどうなっていくのかはまだわからない事が多く、マーケットに大きな動きが出るリスクは常にあるため注意しながら取引していきたいです。

今週はカナダで政策金利の発表がありますが利下げ予想が多く、利下げが続いている間はカナダドルには下げ圧力がかかりそうです。

月曜は、米国はレイバー・デー(勤労感謝の日)で祝日となっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週のドル/円は順調に上昇し、146円台まで戻してきました。

146円台は抵抗が多いため上値が重くなってきたら注意したいです。

147円のせに成功すれば148円が視野に入ってきます。

下値は145円あたりにサポートがありますが144.8円を割り込んでくると143円台まで下落するリスクがあります。

8月後半の安値143.4円を割り込んでくると円高リスクが再燃しそうです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週後半は上昇して終わっているペアが多く、上昇の流れが今週も続くかどうか注目したいです。

値動きは8月後半以降ほとんどない状態なので、細かく利益を狙っていきたいです。

クロス円は株との連動が強いため米国株や日本株の上昇がいつまで続くかも見ていきたいです。

リスク回避的な動きが出たら、大きく下がるかもしれないので注意したいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル?>

日本では7月景気先行指数などがあります。

米国では8月製造業PMI(改定値)、8月ISM製造業景況指数、7月貿易収支、7月製造業新規受注、7月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、米地区連銀経済報告(バージュブック)、8月ADP雇用統計、前週分新規失業保険申請件数、8月サービス部門・総合PMI(改定値)、8月ISM非製造業景況指数、8月雇用統計などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで8月製造業・サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏で7月卸売物価指数、7月小売売上高、4-6月期GDP(確定値)、ドイツで7月製造業新規受注、7月鉱工業生産などがあります。

ほかには、中国で8月Caixin製造業PMI、オーストラリアで4-6月期GDP、カナダで政策金利の発表などがあります